

ネパールのシェイ・フォクスンド国立公園 における地域コミュニティに基づいた ユキヒョウ保全の強化

活動地域  ネパール

つづける助成

3年目

調査研究

赤外線カメラトラップ
設置数 **200個**

調査によるユキヒョウ
推定生息数 **92頭**

今年度計画の達成度 **95%**

全体計画の達成度 **90%**



赤外線カメラトラップが捉えたユキヒョウ

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスによるロックダウンにより2020年と2021年は調査地へのアクセスが困難であった。また、日本人協力者の渡航が難しく、糞分析に遅れが生じた。

■工夫した点

市民サイエンティストとして地域住民が訓練を受けることで調査地での活動が円滑に行えた。プロジェクトの地域コミュニティ主導で実施できるよう能力強化に重点を置いた。

課題

絶滅に瀕するユキヒョウの生息数情報が不足した中でユキヒョウと人との軋轢問題があり、地域コミュニティがユキヒョウの保全に関与していないことが課題であった。

目標

地域コミュニティにおける野外調査や家畜襲撃に対応する能力を高めることで、ユキヒョウの個体数を把握し、地域コミュニティベースの保全活動を強化する。

活動内容と成果

約200台のカメラトラップ調査により、国立公園全体のユキヒョウの個体数情報を取得した。また、計106人の市民サイエンティストが調査トレーニングを受け、地域コミュニティベースのユキヒョウ保全委員 (SLCC) として5人が能力付与された。牧畜民のおよそ585世帯の家畜襲撃補償申請に協力し総額NRs 17,077,500を受け取った。また、国立公園局の協力の下、六つの家畜襲撃防止柵を設置した。少なくとも10回の地域コミュニティ会合を開き、500人以上に対してユキヒョウの保全の啓発を行った。



地域住民へのユキヒョウ保全の啓蒙活動

全助成期間の活動を振り返って

全体として、ユキヒョウ調査トレーニング、家畜襲撃に対する国立公園からの補償受領支援を通じて、ユキヒョウ保全のために地域コミュニティの強化を達成した。また、ユキヒョウのカメラトラップ調査を3年間継続した結果、プロジェクト地域には92頭のユキヒョウが生息していることが判明する等、素晴らしい研究成果も得られた。本プロジェクトは、本団体のプログラム実施能力と人材能力の発展にも貢献した。



Bhijer村に設置した家畜襲撃防止柵

44700, Lalitpur metropolitan city ward no 25, Saibu
電話: +977-9861315357
E-mail: info.cesnepal@gmail.com
HP: <https://www.facebook.com/CESNepal/about>



今後の展望

地球環境基金の支援によって、地元コミュニティのユキヒョウ保全に対する能力強化が達成されたことを示せるように、今後さらに政府機関と地域コミュニティの理解と協力を仰ぎ、連携強化を図る。それによりユキヒョウの個体数確保につながる活動を目指す。そのためにも京都大学とCES間で締結された覚書を活用し、さらなる資金確保と分析技術のサポートが得られるようにする。

